



— 4月 FAX例会 —

ごあいさつ

会長 中田 雅昭

先月も少し触れたのですが、ロシア軍のウクライナ侵攻の状況が凄く気になって、普段からテレビはあまり見ないので、毎日YAHOOニュースやYouTubeでいろんな事を考えながら見ていますけど、皆さんはどのような思いで見えていますか？ロシア軍の戦車や軍用車両が破壊されているのを見ると気分いいですが、その周りでは兵士が死んでいて、町中で市民が撃たれて道ばたで死亡している、虐待やレイプ、無差別殺人とも言える映画の一部シーンの様な事が、リアルな世界で今現在起

こっているのは恐ろしいですね。日本もロシアに制裁を科しているので、プーチンを怒らせて日本を狙うとしたらまず北海道なので、もしかしたら、ある日突然、ミサイルが飛んでくるかも知れませんが！早くプーチンをどうにかして欲しいです！ガソリンの高騰など影響が出ているので戦争は早く止めるべきです。

そしてコロナですが、ここ数日の感染者数200人越えて一向に収まる気配なしです。3回目のワクチン接種を先週終えたので一安心ですが、早く収まって欲しいです。今月は明るい話題なく、季節はすっかり春ですが、私達の日常にも春が来て欲しいですね。

今月は 会報委員会 の皆様です

「留 学 生」

三 谷 治

最近まで韓国から日本への留学生と言う人と関わっていた。24歳、独身の女の子である。旭川の大学に留学して、将来は日本の航空会社のグランドスタッフとして働きたいとの事だった。因みに日本語は堪能で、メンバーの外川君よりも聞き取りやすいとの評判であった。最初は、韓国訪問時の苦い経験もあり偏見もあったが、話してみると意外と打ち解けやすかった。

卒業単位を1月までに全て取り終えた彼女であったが、残念ながら会社の採用募集は無く、卒業式を待たずに帰国してしまった。

ただ、帰国前に話してくれたのは「今の状態では仕方のない事であるが、コロナが収まったら再度日

本に来て挑戦したい。それまでに英語と数学を勉強する。」である。

その時を楽しみに待ちたいと思うこの頃である。

「太り始めた日」

工 藤 稔

久しぶりにお会いする方に、「少しお太りになりました？」と言われる。「そう言うあなたも、少しではなく、かなり…」と反論したくなるが、70歳の前期高齢者だから、おとなしく言葉を飲み込む。他人に指摘される前に、自分が一番知っている。

タバコをやめた10年前、1年間に体重が10^{キロ}増えた。太り始めた日も分かっている。2011年10月28日金曜日。その夜、会合があつて、ちょっとお酒を飲んだ。前日までスパスパ吸っていたタバコをやめ

た初日である。なんだか口寂しい。

気が付くと華龍閣のテーブルで、ラーメンと餃子とチャーハンを食べていた。飲んだ後、1人で中華屋に入るなんて、初めてのこと。その日から、72^{キロ}だった体重が85^{キロ}に向けて増え始めた。

ここ2年ほど、新型コロナの“巣ごもり”が拍車をかける。掛かり付けの医者に「まじめに考えないと、糖尿の一手手前だぞ」と脅されている今日この頃…。

「自分と向き合う」

听 崎 美 子

コロナ禍の中、皆様どの様にお過ごしでしたでしょうか？ 私はコツコツと今迄続けて来た習い事に向き合う時間が増えました。

何かを習い始める時、一流の良い先生に習う事も大切ですが、自分自身がどう言う風に努力し向き合うかが大切だと思います。

あまり耳慣れないと思いますが、私の好きな利休道歌、二首をご紹介します。

○ その道に 入らんとする 心こそ

我身ながらの 師匠なりけれ

○ 稽古とは 一より習い 十を知り

十よりかえる もとのその一

とても基本的な事を詠んでいるのですが、心に響く言葉だと思います。皆様どう感じられたでしょうか？

まだまだ自由に行動出来ませんが、早く御会い出来る日を楽しみにして居ります。

「趣味を楽しむ」

谷 口 哲 雄

◇ コロナ禍が終息して、マスクの要らない日常のもと、存分に趣味を楽しみたい思いであります。今では趣味と言えますが、そもそもは習い事が遊びの一つで始めて、団体の中で先輩に励まされ、楽しくやれたので続けられました。

◇ 20代、囲碁との出会いは、先輩が「切った、死んだ」を発しながら修羅場を楽しんでおり、手ほどきから45年程。今日も4団体に加わり5、60名

の方々との対局を楽しんでいます。囲碁は頭脳スポーツとも言われ、秀でたアスリートは練習1万時間説もあるとか。小生の囲碁時間は多く見積もっても半分、「伸びしろ」が残っている？つもりです。旭川はプロ棋士4人、アマ全道優勝者も輩出するなど、棋力向上には地の利があります。

◇ 30代では、職場内での「菊づくり」に参加、「手を掛けただけ、花で応えてくれる」師承と奥深さにハマって35年。今でも「大菊3本、ダルマ、福助仕立て」30鉢程と他市の菊花展鑑賞で楽しんでいます。市内では愛好者が少なくなり、菊花文化の伝承が気掛かりでもあります。

◇ 50代には、健康・食・ボランティアに誘い誘われて「水の会」を作り、水泳の4種目・50分遠泳が修得できて、達成感を味わいました。また、「手打ちそば」の名手に出会い入門し、検定会の出場、各地イベントの手伝い（ボランティア）を経て、そば打ちを楽しんでいます。

◇ 60代に入り、そば関連で料理にも興味がわき、男の料理教室や食品加工にも参加しています。

◇ 長年続けられたキーワードは「仲間・楽しく」であり、趣味をツールに沢山の出会いと交流が生まれ、貴重な経験を重ねることが出来ました。まさに小生の趣味は、生涯の友、人生の潤滑油になっています。機会があれば趣味談義の酒席も嬉しい限りであります。

「溪流の季節」

敦 賀 幹 夫

近郊の雪解けも一気に進み、日当たりの良い丘にはフキノトウも顔をだし、毎年楽しみにしている溪流釣りの季節が近づいてきました。

私が初めて川釣りを経験したのは、道南の田舎に住んでいた小学生のとき、学校の裏山に流れていた川の釣りに、父に連れて行ってもらったことが最初でした。

私の父は田舎の小学校の校長をしていましたが、昭和31年3月10日大雪の日の早朝、学校の通路の雪かきの最中に突然倒れ、治療の甲斐もなく数日後52歳で逝去しました。

その時、私は小学校5年生、父がいなくなって、一番さみしく感じたことは「ああ、これからは父と一緒に釣りに行けないんだな～」と思いだしては泣きながら父と一緒にいった川に一人で釣りに行っていました。

今、ご縁がありこうして旭川に在住し、旭川プロバスクラブで井川会員、山本会員、尾崎会員と溪流釣りの先輩にお会いし、釣りの楽しさで意気投合！昔、小学生時代から遠ざかっていた溪流釣り経験が一挙に沸き上がり、井川師匠から竿の選び方、針の結び方、釣り方まですべてご指導いただき、早、5年になりました。

この5年間、道北、道東、知床方面まで、北海道の大自然の溪流の楽しさを満喫しております。大雪山のふもとから流れ出る清流に生息するパーマークの美しいヤマベ、源流に生息し、かつては幻の魚といわれたイワナ、オショロコマ。北海道の自然は素晴らしいです！



山々の絶景に囲まれた神秘的な溪谷、朝もやの中の小鳥のさえずり、それは川の宝石ともいわれるカワセミ、白黒の模様が美しいヤマセミ、そして流れる川のせせらぎは、まさに交響曲の音楽です。

釣り上がるごとに次々現れる四季折々の豊かな色彩、まさに地上のコロナ騒動とは無縁の別世界であります。最近は楽天、アマゾンのネットでアウトドアギアを探し、購入、溪谷での車中泊、ぼっちキャンプも楽しんでいます。

残り少ない人生において、良き仲間とこの感動に会えることに心から感謝の日々です。

「雑駁として」

外川光宏

男山と高砂酒造、旭川には世界に誇る酒造メーカーがあり、特有の品質が求められる特別な酒米を用い、優れた杜氏、蔵人、そして何より大雪山系の伏流水が旭川ならではの美味しい酒を作り出している。この2社の酒を私は何より愛し旭川の酒屋として守って行きたいと強く思っている。これは一貫して変わらない。

1980年代、全国的に地酒ブームが起こり、越乃寒梅や一ノ蔵等が幻の酒と呼ばれ、2,000円余りの物が10,000円以上の価格で当時売買されていたものだ。'90年代には久保田が脚光を浴びたが、当時旭川市では販売店は2～3軒しか無かった様に思う。値段も吊り上がっただろう。獺祭ブームもあったが、今では落ち着いてきている。皆様の記憶にもまだ新しいのではないだろうか。確かにどれも美味しい酒だ。

…酒の美味さ・旨さ…とは何か。

先月大学時代の友人が、まん防明けに北海道に夫婦で遊びに来てくれた。ご主人を拝借する形でさんろくの飲食店で地元の普通酒と北海道の肴で杯を交わした。40年間の隔たりはなく、懐かしい話で会話は弾み時がたつのも忘れた。心底旨い酒だった。久しぶりにどんな酒を呑むかではなく、どんな人と酒を交わすかが一番であり、確かに旨い酒が自分にはあったかけがえのない青春時代を思い出した。本当に大切な時代だった。

2年以上続くコロナ禍の時代、時の流れは遅く長い。暗い気持ちでいた心を洗うかの様に旧友は旨い酒を私にもたらしてくれた。

旨さとは心があっての事なのだろう。コロナを皆で乗り切り、旨い酒をこの旭川で皆様と共にしたい。切に思う。